

水道水源原水からフィプロニル

地下水研究会

東添道 山川で検出

基準以下も
健康リスク 市に請願、県へ緊急要請

宮古島の水道水源原水からフェニルピラゾール系農薬のフィプロニルが高濃度で検出されたことが30日、宮古島地下水研究会(共同代表Ⅱ友利直樹、前里和洋、新城竜一)によって明らかにされた。フィプロニルは農薬類の中で最も厳しい基準を持つ物質の一つであり、発がん性など多岐にわたるリスクが指摘されている。東添道水源原水では1㍓あたり87ナノ㍑、山川水源原水では同17ナノ㍑と、厚生労働省の設定する管理目標値上限(1㍓あたり500ナノ㍑)のそれぞれ17%、3・4%に相当する。

この検出値は10月までに
行った農薬類精密検査を含む
水質検査の結果として市
水道部のホームページ内に
記載されている。

同研究会は同日、市未来
創造センターで「地下水・
水道水ネオニコチノイド系
およびフェニルピラゾール
計農薬複合汚染」をテーマ



関心を持つ多くの市民らが聴講した＝市未来創造
センター内多目的ホール



利直樹共同代表

にした健康講演会を開催。
医学博士でもある友利共同
代表は「これまでネオニコ
チノイド系農薬の健康被害
について訴えてきたが、最も
恐れていたのがフィプロニ
ルの検出だった」と嘆いた。
その上で「この成分の重
要な毒性は発がん性だ。神
経毒性、内分泌かく乱作用
などそのリスクからEUで
は2017年に、中国でさ
えも09年に使用禁止として
いる」と強調した。

国はフィプロニルの1日
摂取許容量を定めており、
この結果からの検出値は特
に乳児に対して健康被害が
生じると懸念されている。

また、県保健医療部長へ
も上記内容とともに市に指
導するよう要請。県保健医

懸念されるレベルである
とのこと。

その使用は、宮古島市で
年間40㍓と全国出荷量の6
%、県内出荷量の14%で最
も多く、その供給の約90%
が行政主導の補助によるも
のだという。

友利共同代表はその管理
目標値がクロロアニジンの
400倍も厳しいことを指
摘し、この農薬の使用によ
る健康被害の可能性がある
とし、この問題に対して原
因究明が必要だと訴えた。

このような背景を踏まえ、
同研究会は市に対して、フ
ィプロニルの定期的な濃度
モニタリングの実施、高度
浄水処理施設の整備、化学
農薬に依存しない総合的害
虫・雑草管理への移行など、
緊急対策を11月18日に要請

し、市は「国の基準値を大
幅に下回っているので問題
とは考えていない」と回答
したとのこと。

則として市町村が経営する
こととされており、技術的
な助言を行うこととしてい
る」「宮古島市から水道施
設の整備に対する支援の要
望があった際は、補助金を
活用した支援について検討
したい」と回答したという。

さらにこのほど同研究会
は市議会へ請願書を提出。
高機能活性炭浄水処理設備
等高度浄水処理施設
な整備を陳情した。
望は3度目となる。